

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570600306		
法人名	医療法人向洋会		
事業所名	グループホームあけぼの	ユニット名	1号館
所在地	宮崎県日向市財光寺1131-24		
自己評価作成日	平成26年7月15日	評価結果市町村受理日	平成26年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&id=4570600306-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年8月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気心がけ、ゆっくり過ごせるよう日々の日課を職員や利用者の方々と一緒に会話しながら行っている。利用者様の話を聞き、要望や希望にできる範囲で実施できるよう心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「個性を尊重し、家庭的な雰囲気の中で、ゆっくり楽しめる生活を支援する」を理念に管理者、職員は利用者一人ひとりの生活歴や職歴を考慮した話しかけで日々のケアを行っている。管理者のホームのあり方や利用者に対する思いを日々のケアや運営に反映できるよう取り組んでいる段階である。職員は、利用者一人ひとりの能力を生かせるよう支援し、家庭的な雰囲気を大切に支援している。家族の協力もあり、運営推進会議には多くの参加があり、地域との関係作りも構築されている。利用者も家庭的な雰囲気の中、穏やかに居心地よく過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、理念を介護サービスの指針と位置づけ、ミーティング等で話し合い、実践できるよう努力している	個性を尊重し、家庭的な雰囲気の中でゆっくり楽しみのある生活が支援できるよう、常に職員が目にするトイレなどに理念を掲示し、毎月のミーティングで話し合い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人主催の納涼祭や運動会は、多くの地域住民の参加があり、交流の場となっている。地区のボランティアの受け入れやイキイキサロンに参加したり、地域との繋がりを大切に交流を行っている。	法人の祭りには多くの地域の方が参加し、交流の場となっている。太極拳のボランティアを始め、ホームの行事は地域の回覧板を利用し、地域との日常的な交流が図れるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当施設では実践していないが、併設施設の研修会に声かけし、参加して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、外部評価の結果、報告、説明をし、改善案等の話し合いを行い、サービスの向上に努めている。	運営推進会議には家族も多く参加し、活発な意見交換が行われている。防災に関する議題が多く、避難経路の改善も行われている。運営推進会議がきっかけとなり、地域の介護サービスの説明会も行われ、サービスの向上に生かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会を通じて働きかけをし、意見やアドバイスをもらっている。	市の担当者や地域包括支援センターとは、時期に応じた研修会の案内やホームの報告事項などを日常的に連絡を取り合い、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていないが、安全を守る為、ミーティングや毎日の申し送りで随時話し合い、対応策を検討している(危険を回避する為、正門の施錠は常態化しているが、外す方向で検討を進めている。外からの出入りは自由)。	身体拘束をしないケアはできている。玄関の施錠においては職員の間で話し合いがもたれ、利用者の状態や危険回避も含め検討を進め、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング、申し送り等で随時実施している。 月1回、自施設にて検討会を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて実施している。また、施設の玄関などにパンフレット類を設置している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学時に、当施設の説明や家族の方の話を聞くようにしている。利用者の方には、体験にて過ごして頂くこともあり、希望や不安な事を随時、聞くようにしている。家族の方や本人に、納得された上での契約を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方や利用者の方の話をよく聞き、随時解決している。 利用者様とは毎日のお茶の時間に意見や不満、心配事を聞くようにし、運営推進会議の場を利用し、意見交換を行っている。		家族の来訪時にはゆっくり話を聞き、要望を引き出すよう関係作りに努めている。運営推進会議も利用し、家族との意見交換を行い、運営に反映できるよう取り組んでいる。	運営推進会議には多くの家族が出席しているが、更に家族が意見を出しやすく、運営に反映しやすくなるよう、家族会の設立など、体制作りに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会では、職員各自から反省や提案、意見等を出し合い、全員で話し合いを行っている。法人の合同定例会にも参加し、話し合っている。		毎月の定例会にて職員の意見を聞き、話し合いを行っている。法人の次長、事務長も出席するようになり、外注の食事の変更などの業務が行いやすくなるなど、職員の意見が運営に反映される体制ができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内の統一された就労条件で働きやすい環境になるよう努力している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が入社時に随時、実施している。 法人や併設施設での研修会の参加や自施設での勉強会を実施し、個々のレベルアップに努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修時などに情報交換を行い、業務に生かせるよう努力している。			

自己 外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にケースワーカー、ケアマネ、職員が家族の話をよく聞き情報収集し、本人の要望、困っている事を受けとめ、できる範囲で対応を行っている。不安な事に対しては、その都度話を聞き、不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時、当施設を見学して頂き、家族の方の要望や困っている事については傾聴している。 本人・家族様の気持ちを受け入れ、思いに添えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントをして、必要な支援を実施している。相談事に応じた職種の方との話し合いや各サービスの提供・紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気づくりに配慮している。家事作業や生活の中で利用者様から教えて頂いたり、色んな場面でそれぞれの役割を持ち、一緒に生活を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、日頃の様子を話し情報交換を行っている。家族の方や本人の話を聞き、中立の立場で働きかけを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら電話や面会をして頂いたり、馴染みの方には本人が電話をし、近況を知らせている。面会時は、居室でゆっくり過ごしていただけるよう心がけている。	なじみの方に電話連絡する利用者や以前通っていた通所に通うことが日課となっている利用者もいる。なじみの人と関係が途切れないよう、支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で作業等を通し、利用者様同士と一緒に活動できるように、常に気をつけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も遊びに来られたり、相談等に随時対応している(暑中見舞い、年賀等)。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話を通して思いや希望の把握に努めている。毎朝の申し送り、ミーティング等で情報を共有し、困難な場合は、関連職員との話し合いを行い検討し、できるだけ意向に添う様に努めている。		日常会話に傾聴し、意向を把握するよう努めている。字が得意だった利用者や髪を染めたい利用者などは、介護計画に盛り込み、意向に沿うよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サマリー、アセスメント、家族様、ケースワーカー、ケアマネとの連携により情報収集・把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送り時に、体調、睡眠、食事摂取量等、心身の状態確認を行い、本人に合わせた日課が提供できるように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が本人や家族との関わりの中で日々の気づきを記録しており、それを基に本人の意向に添った計画になるよう作成している。定期的及び随時の見直しも行っている。		担当職員が3か月、6か月ごとに見直しを行っている。計画作成担当者は、運営推進会議時や来訪時に家族の意見を聞き、介護計画に反映させている。変化を伴う場合には、随時、家族に連絡し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアチェック、個人別記録、毎朝の申し送りミーティング等にて情報交換や話し合いを実施、必要に応じて検討行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに合わせ、よりよいサービスが提供できるように他職種間の連携、話し合いを行い実践している。また、併設施設の協力を得ながら、更にサービスの多機能化に取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園、理・美容室、スーパー等を利用し、ボランティアの受け入れも随時行っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医の受診を実施している。法人の母体である病院をかかりつけ医としている利用者も多く、24時間体制も整い、迅速な対応が安心に繋がっている。		それぞれのかかりつけ医に必要であれば送迎の支援も行い、定期的に受診支援ができている。法人の医療機関との連携も図り、24時間体制も整えられ、適切な医療が提供できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携による訪問看護にて、個々の利用者の情報を共有し、適切な受診や看護が行えている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供を行い、ケースワーカーを通し随時情報交換を行い、その都度状態に合わせ話し合いを行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との話し合いは入居時に行い、施設の方針を話している。母体病院との連携により必要な治療・支援を行っているが、終末ケアの実施は行っていない。		ホームとしての看取りは行わない方針が管理者、職員共に共有できている。家族への説明も入居時に行い、随時話し合いをしながら、ホームとしてできることを支援している。	ホームとしての方針が職員間では明確に認識されているが、書面に明記されていないため、今後、書面化されることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを表示し、適切な対応が迅速に取れるようにしている。また、マニュアルに沿って、定期的に手順の確認を行っている。年に数回の救命の勉強会を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	沿岸に近い為、津波災害時の避難を最大の課題としている。このことを踏まえ、年2回の避難訓練、法人全体の避難訓練を実施している。10月には消防、地域に協力を依頼し、避難訓練実施予定。		ホームとしての火災訓練を年2回行っている。地域を交えた訓練が10月に予定されている。法人の併設施設との連携も図り、災害対策に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の生活歴・職歴を尊重し、一人ひとりに応じた声かけを常に心がけているが、不十分な場合がある。個人情報についても、利用目的などが利用約款に明記され、慎重に取り扱っている。	利用者一人ひとりの生活歴や職歴を尊重し、声掛けに気を付けている。テーブルの配置にも気を付け、人格や誇りを傷つけないよう支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類や嗜好品など、会話や表情から本人の意思をくみ取り、本人の意思決定を尊重している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務上困難な事もあるが、その日の体調や状況に合わせて個人のペースで過ごしていただいている。毎朝の体操時にその日をどのように過ごしたいか、希望や話を聞くように心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの理・美容室や好みの衣類、化粧品等を購入し、その人らしさを表現できるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事に合わせた食材・調理法等を話題にし、一緒に作る事で、楽しみを見い出している。利用者の希望を聞きながら野菜切り・米洗い等の下ごしらえ、下膳等、力量に応じた関わり合いができるように支援している。	利用者の状態に応じ、一緒に食事の下ごしらえを行ったり、配膳や下膳も行っている。茶碗洗いを手伝う利用者もいる。季節や行事に応じた献立が立てられ、食事が楽しめるよう支援をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量のチェックを行い、体調や状態に合わせ、食べやすい食事を提供している。また、必要に応じ補助食品の検討を行い使用している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態に合わせて声かけを促し、必要に応じて介助を行っている。定期的に義歯洗浄剤を使用し、保整に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状態に合わせて排泄誘導を行い、日中はトイレでの排泄ができています。必要に応じて、オムツ検討を行い、トイレでの排泄が継続できるように支援しています。夜間はポータブルトイレ、居室トイレを使用することで、自立に向けて支援しています。		日中は排せつチェック表を利用し、トイレでの排せつ誘導を行っている。夜間頻尿には医師と連携して日中の排せつにするなど、排せつの自立支援に向け、取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に対し、食材(乳製品等)の検討、水分補給、運動を提供し、排便管理を行っている。必要に応じ医師へ相談、指示を得ている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日置きの入浴の実施。一番風呂の希望や個々のタイミングに応じた支援をしている。拒否のある場合は時間を置いたり、翌日に入浴を支援する事もある。		一日おきの入浴となっているが、利用者の希望やタイミングに応じ支援している。拒否のある利用者や一日2回入浴する利用者など個人に応じた支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた睡眠時間の確保、状態に応じた休息を促している。馴染みの寝具の使用。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は行っている。処方薬についてはファイルにし、常に新しい情報を提供・共有している。 経過については医師への報告、カルテ記録にて状態変化の把握に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの役割があり、日課、レクリエーションへ参加をされている。 嗜好品を楽しみ、個別ドライブ等で気分転換を図れるように支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力で買い物や食事に出かける利用者もいるが、日常的に戸外へ出かける機会が少ない。		短時間でも日光浴や散歩に出かけるようにしているが、階段の昇降が負担になっている利用者も増えてきている。家族の協力で、希望する外出ができる一部利用者もいる。職員は、個々の利用者の身体状況や希望に沿えるよう外出支援に努めている。	2階のユニットでは加齢に伴い、身体機能の低下も伺える利用者もいる。今後、日常的な外出を支援するための工夫を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理は難しいが、数名の利用者様には、家族様と相談し、少額のお小遣いを自分で持って頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、随時行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物等で季節感が出せるよう工夫し、室温、換気なども配慮し、台所にも自由に出入りできるようにしている。可能な限り環境の整備を行っている(明るさ、目印、音量、室温)。		共用空間には、利用者の創作活動で作成した掲示物で季節感を出している。廊下にはソファが置かれ、利用者がそれぞれの場所で休んだりするなど、居心地よく穏やかに過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにベンチ・ソファを置いたり、玄関、廊下に椅子を置く等、環境を出来る範囲で整備している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	作りつけの家具等があり、できる範囲で行っている。タンスには自分が使いやすいように衣類を収納したり、家族の写真やなじみの物を置いたり、本人が居心地よく過ごせるよう支援している。		居室には、作りつけの家具が設置されているが、利用者は使いやすいよう収納している。使い慣れた毛布やタオルケットを持参し、フットマッサージや扇風機を持ってくるなど、利用者が居心地よく過ごせる工夫や支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行時の手摺り使用や下肢筋力の低下のある方については、昼間はホールのトイレの使用を促し、できる限り安全に生活できるよう支援している。場所の表示や個人の状況に応じて、トイレ内に尿パットを設置している。			